

住

名古屋石材工業組合

互いに連携し石に関することなら どんなことにも対応

都市景観の整備にも重要な役割

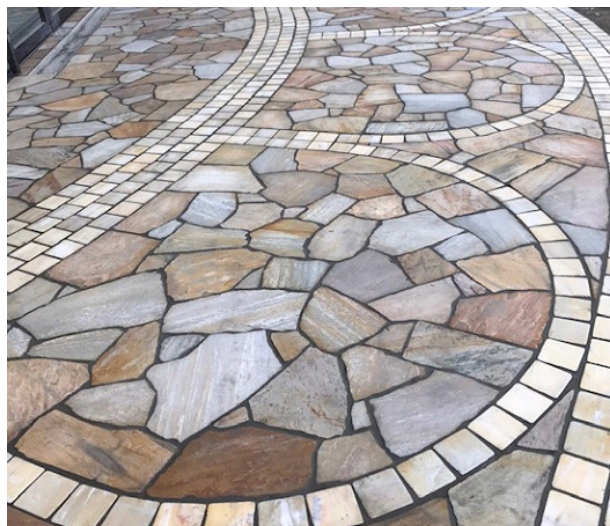
石畳の残る昔の街道、石灯籠を配した庭園、石組の橋、石垣の続く坂道など、石のある風景はどこか心地よい雰囲気を醸し出します。石の特徴として、丈夫で長持ちすることが挙げられます。そのため、昔から道標や石碑などに使われてきました。

かつては石でつくられていたものの多くがコンクリートに取って代わられていきましたが、石の需要がなくなったわけではありません。例えば現代的なビルの内装や外構部分にもよく使われます。都市景観整備を進めるとき、コンクリートではなく、石垣が使用されます。

名古屋石材工業組合は昭和 20 年代に設立され、昭和 60 年（1985）に協同組合となりましたが、再び石材工業組合となりました。現在、組合員は 15 社です。

伝統的なものから現代風の石材まで

石材工業組合の名前が示すとおり、石を使用した土木・建築工事から石灯籠などを配した造園業的なこと、或いは神社仏閣の石の鳥居、狛犬、寺標に関



現代風デザインの歩石

することまで石に関する工事なら何でもこなします。使用する石は場所や使い道によって異なってきます。組合員によって、それぞれが得意とする分野があり、お互いに連携することで石工事に関することなら殆どのことに対応しています。

ただ、最近では国内で日本庭園をつくる人が減り、代わりに中国で日本庭園が人気となっています。石灯籠なども中国でつくられ輸入されたものが多く、日本では需要が減ったこともあり、製作できる職人が減少しているのも事実です。そうした中で活用しているのが SNS です。石に関してデザインや素材など確認したいことがある時、その場で写真を撮って SNS に載せると、他の組合員からすぐに適切な答えが返ってきます。

昔ながらの石材の利用は減っていますが、現代にマッチした石材の開発も行っています。例えば、もともと玄関アプローチに用いられる乱形石材をオフィスの受付に飾る社名板にするなど現代にマッチした用途も広がっています。



石造りの納屋橋に併せた堀川の護岸